

自動車技術会 燃料電池部門 将来ビジョン策定について

燃料電池部門委員会 委員長、幹事

燃料電池技術に関する将来ビジョンを策定するにあたり、燃料電池車（FCV）開発各社に協力を求めたところ、同様のビジョンが独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO「燃料電池・水素技術開発ロードマップ」（以下、本ロードマップ）として策定されており、各社とも本ロードマップの策定に積極的に関わってきた旨の経緯説明を受けた。従って、現段階で本ロードマップを訂正したり、新たな事項を追記する必要は認められないとの共通の見解が寄せられたため、部門委員長および幹事で協議した結果、本ロードマップを転載させてもらえるならば、それを以って十分将来ビジョンを提示する目的に合致するとの見解で一致した。

部門委員長から NEDO 新エネルギー部 燃料電池・水素グループに、上記の経緯を説明し、転載許諾の打診をしたところ快諾が得られたものである。

具体的に転載するロードマップは、「燃料電池・水素技術開発ロードマップ」

<http://www.nedo.go.jp/content/100086290.pdf>

の 2 ページ目「固体高分子形燃料電池（PEFC）ロードマップ（燃料電池自動車(FCV)）」である。現在 FCV は市販フェーズに到っていないが、2015 年頃市場投入、2020 年頃普及期、2030 年頃本格商用化として、各々のフェーズにおける自動車用 PEFC の耐久性能や量産 50 万台生産ベースの試算でコストのレベル（ガイドライン）を定めている。これらのガイドラインを実現するために必要な技術開発項目がブレイクダウンされているという構造を有し、商用化に向けた具体的な技術開発マップ（ビジョン）が提示されている。また、各社は商用化に向けて大きな課題となるコストについては、技術的な要素のみならず、生産性も含めて検討・推進を行っている。

また、「水素貯蔵技術ロードマップ」

<http://www.nedo.go.jp/content/100086293.pdf>

には、上記の FCV 商用化スケジュールとリンクさせて車両搭載水素の技術課題（高圧水素のほか、液体水素、水素吸蔵合金などにも言及）が提示されているため、これを参考資料として併記することとした。

以上